



大学院社会文化科学研究科

准教授 岩田 奇志さん

Iwata Kishi

●プロフィール

- 杭州大学（現浙江大学）で日本語を学ぶ。
1989年 北京外国語大学大学院日本学研究中心卒業後、清華大学外国語学部で教鞭を執る。その後、結婚して来日。
2001年 名古屋大学大学院経済学研究科博士後期課程入学
2004年 経済学博士号を取得。中国及びマレーシアの経営問題を研究する傍ら、日本福祉大学で非常勤講師を勤める。
2008年 熊本大学大学院社会文化科学研究科准教授として、単身赴任中。

その後の人生を決めた日本語との出会い

中国出身の岩田さんは、母国での大学受験の時、外交官を目指し英語専攻を希望しました。しかし、体が小さいので日本語を勉強してはどうかという面接官の意見で日本語専攻に変更。「それがその後の私の人生の方向を決めることとなりました。今日、熊本大学の恵まれた環境のもとで仕事ができるのもその一つの結果です。何が幸いするかはわかりませんね」と笑う。

大学を卒業後、北京外国語大学大学院に進みました。中学生時代から、北京大学で哲学を学び、合肥工業大学で教鞭を執った父と、経済に詳しい兄との討論を聞きながら育ったという岩田さん。どちらかという自分の意見を話すよりも、本を読んだり静かにものを考えたりすることが好きだったので、清華大学外国語学部で教鞭をとる道を選びました。

清華大学外国語学部では、吸収の速い優秀な学生たちに教える楽しさを感じながら充実した生活を送りました。その後、日本人と結婚し来日。すぐに子どもに恵まれ、11年間家庭に入りました。その間、研究者である夫の支えもあり、研究を続けてきました。

「子どもたちの昼寝の間に原稿を書き続けたのですが、一人が寝付くと一人が目覚ますなど苦労したことは、今となってはいい思い出となっています」この間に、9本の論文を書き上げました。「論文をまとめるには資料を集め、整理し、問題との関わりについて考察するなど下調べが必要なので、大変な作業です。しかし、研究を続けていくうちに、研究の楽しさを覚え、やめられなくなるんです」と楽しそうに思い出を語る岩田さん。

これまで、マレーシアにおける企業経営行動のエスニック別比較分析のほか、現代中国企業の実情を踏まえ、その後の経営環境を分析し、中国企業の急速な発展についてまとめるなどの仕事をしていました。

中国人女性の活躍に刺激を受けて

その後、日本の研究グループの中国調査に同行し、通訳として調査に協力したとき、このグループのリーダーとして活躍している中国人女性の姿を見て、「自分もこんなふうに活躍したい」と大いに刺激され、2001年に、二人目のお子さんが小学1年生になったのを機に名古屋大学大学院経済学研究科博士後期課程に入学、もう一度勉強し直すことに。名古屋大学大学院時代の指導教官岸田民樹先生は、個人の休息時間を削って院生の研究を指導するという大変熱心な方でしたので、奇志さんはいつも教育熱心な先生に心底感動し、留学生が頑張っている姿を見て、元気がわいてきたと言います。そして2004年に経済学博士号を取得。

「研究という仕事は、精神的余裕と時間的余裕をもって常に気持ちを研究に集中しないとできません。結婚・出産・育児と研究生活の両立は本当に大変なことであり、強い忍耐力が必要です。また、夫をはじめ家族の理解と協力は欠かせません。後輩にアドバイスするとしたら、先のことをあまりくよくよ考えずに、焦らず毎日確実に、そして少しずつ研究課題を進めることを強調したいと思っています」。



赤門の前で

初心を忘るべからず、焦らず確実に少しずつ。